

## とくほう

現地の声

## 医療・介護法案

激務・低賃金…

政府は介護職員を2025年までに、いまより100万人増やすことが必要だとしています。しかし、政府が採決実行をねらう医療・介護総合法案が実施されると、介護の現場はどうなるのか。大阪市城東区の城東特別養護老人ホーム（大阪福祉事業財團）で密着取材しました。（内藤真己子、写真・橋爪拓治）

城東特別養護老人ホーム／大阪市

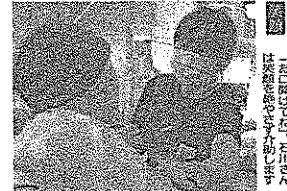
密着

85人が暮らす同ホーム。介護にあたる職員は正規職員が18人、臨時・契約職員が14人います。園が決めた基準よりかなり手堅い体制ですが、業務は過酷です。

11:00 5月26日、勤続9年の主任介護職員・石川真由美さん（48）の勤務が始まり、担当する33人の状況

## ベッドへトイレへ「移乗」数十回

を引き継ぎます。  
休む間もなく昼食の準備。利用者の大半が車椅子のため、ベッドやトイレに移動させる「移乗介助」は1人で1日数十回に及びます。「腰、首、腕がいつもదるい。医者に行く暇もなくて」



12:00 昼食の介助。認知症の女性の口にお茶を運ぼうとしたところ、左手を噛み込まれました。なめたり、つねったり。「痛いわ。やめてね」それでも笑顔を絶ちません。

13:00 1日5回のおむつ交換。食事を取る間もなく、動き回ります。

14:05 ようやく休憩。勤務に入ってきたこれまで3年前、石川さんはトイレに行かず水も飲んでいません。カップラーメンで昼食。休憩を30分で切り上げ、パソコンで記録入力。定時の午後7時を過ぎても終わらず、職場を後にしたのは午後9時前でした。

「残業も多いし、きつい仕事ですが、お年寄りに『ありがとう』といわれるとやりがいを感じます。

励まされます。私は生活を支える必要があるのに辞めたいと思ったことはないけど、子どもを扶養してきた部分はありますね」

18:00 27日、今西高彦さん（47）が夜勤に。鍼灸師から転職して6年目です。

夜勤は1、2階の8人の利用者3人で担当。昼間の3分の1以下の体制です。

19:00 体温が不安定な人の体温や血液中の酸素濃度などを測定。ターミナル（終末期）の利用者が3人。夜勤は看護師がおおら「急変がないか気が抜けません」。

21:00 60人以上のおむつ交換。ナースコールで呼びつけられると男性がベッドから落ちてきました。起き起こしへべッドに寝かせます。

21:53 就寝のおねにさり3回で夕食。22時、消防。

23:30 1回目の夜間巡回。朝まで4回、回ります。

0:35 国産の女性が目を覚ましたので「充分補給しましょう」脱水防止のため、とろみのある液体を口へ。居室にはCDアッキ。音楽がお好きなんですね。うなぐく女性。深夜、いのちと向き合う時間が過ぎます。

## 「急変心配」いのちと向き合う夜勤



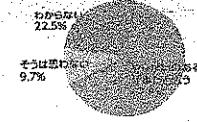
2回目の巡回。おむつを外して排尿し、毛布までぐっしょりぬれた男性が、着替えをし毛布も交換します。

4:45 今西さんが軽度2時間の休憩を終了。「1時間半は眠れました」5時からおむつ交換、洗面、朝食準備と続きます。

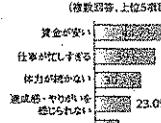
5:15 夜勤が終了。「急変がなくボッとなりました。やっぱり夜間も看護師さんがいてほしい」

## 賃金は月21万円 離職率17%

今の仕事はやりがいある仕事だと思います



今の仕事やめたい理由



全労連が今年4月発表した「介護施設で働く労働者アンケート」「中間報告」では、「やりがいある仕事だと思う」人が7割近くを占める一方、「仕事をやめたい」と「いつも思う」「ときどき思う」が合計で6割を占めました。やめたい理由のトップは「賃金が安い」でした。

「生活の場」は、患者の調理室出しの調理が専門的で、その調理が得意でないと人は年次休年はなくなります。今年の法律で、施設所が定期的に評議会を開くようになります。改修がやめられない場合は「改修費」を負担するようになります。

1年目の預金が10年には

30人へ倍増となっています。

年間的な介助が必須で、

施設・介護施設業界で

年々賃金が上昇している

一方で、年々賃金が上昇

する一方で、年々賃金が上昇

する一方で、年々賃金が上昇